

令和2年8月25日

2学期始業式校長講話

今日は、現役東大生作家の西岡壱誠さんについて話をします。

西岡さんは、思考術、読書術、作文術といった独自の勉強法で、東大に合格し、現在、経済学部3年に在学しています。著書『東大読書』は30万部のベストセラーとなりました。

西岡さんの高3の模試の偏差値は35だったそうです。東大をめざすきっかけを作ってくれたのは担任の先生だったそうです。

2浪して見事合格、その高校では初の東大合格だったそうです。担任の先生に報告に行くと「君は面白い。オレも正直、東大に行くとは思っていなかった。偏差値35から東大に受かったのはすごいことだし、それは誰かに希望を与えられる。それを世の中に伝えることは意義がある」と言ってくれたそうです。その言葉に押されて東大本を書いたようですね。

私は、最近出版された『東大思考』を読みました。その中から、頭のいい人はどんな思考をしているのか、書かれた部分がありますので一つ紹介します。

そのテーマは、「目的の解像度を高める」ということです。

東大生は、目的を常に持ち続けるようとする習慣があり、それによって思考力が高められてるといいます。

目的を具体的に意識して目的の解像度を上げていく方法は3つあって、一つは、常に、今やっていることの目的は何か、自問することだそうです。例えば、行動の目的を意識すると、部活は部活、遊びは遊び、勉強は勉強とメリハリをもつことができます。

二つ目はゴールを意識すること。例えば、東大ではディスカッションでも「この話し合いのゴールは何だっけ？」と確認する学生がいるそうです。そうすることで自然に会話が論理的・合理的になってきます。これは私の体験ですが、最近 zoom 会議が多くなってきて、普段の会議と違って論理的に話を進めなければならない場面が多くなりました。その際、お互いにゴールを意識することがとても重要だと感じています。

三つめは、数値目標を入れる。さらに目標を予想される成果を3つ作る。数字を入れるとは、1時間で3つ問いを作る、といったように行動する内容を明確にします。次に目標を3つ作るとは、松・竹・梅の3段階を用意するとよいと言っています。例えば、①最低でもここまでクリアする、②現実的にはこれくらい（中間）、③ここまでできたら最高、3つ目標を立ててから実際にやってみると目標の幅のなかでどこかに行けるわけです。

このように、常に目的が何か自問する、ゴールを意識する、数値目標や松竹梅の評価基準を設定するという3つのことで目的の解像度がどんどん高まっていきます。この習慣を身に着けると思考力が高まり、思考力が高まると学力が見る見るうちに伸びるといいます。これはだれでもできることです。やらない手はないですね。

ところで、連日、全国的なコロナウイルス感染症拡大の状況が報道されています。県内でも50人以上の新規陽性者が確認される日もあり、厳しい状況が続いています。全国の死者数は1000人を超えています。その80%は70代以上の高齢者です。若人の死亡例も報告されています。突然コロナに感染し、突然命を奪われるなんてこんな理不尽なことはありません。私たちは、健康で安全に生活しながらこの与えられた命を全うすべきです。どんな危機が迫っても、みなさんはその危機を回避する能力をもっています。何ものにも代えがたい、かけがえのない命を大切に日々を過ごしましょう。